

旅する北欧の冬

深井せつ子さん



ふかい せつこ／画家。東京都在住。20代の頃より多くの国を訪ね、1985年より北欧諸国への取材旅行を重ね現在も作品を発表し続けている。「月刊たぐさんのふしぎ」（福音館書店）では、5冊目となる『スウェーデンの変身する家具』（2018年12月号）を上梓。近著に『児童文学の中の家』（エクスナレッジ）など。



NPO発達保障研究センターの「北欧研修ツアー」にもご縁がある画家の深井せつ子さん。北欧を旅してきたなかでの冬を語っていただきます。

アンデルセン童話と冬

北欧の冬というと「寒い」イメージが強いと思いますが、寒いのはその通りなんです。北欧にはメキシコ湾流が流れているので、ヨーロッパの内陸部よりはまだ過ごしやすいと思います。それでもマイナス数度にはなるので、相当な寒さですよ。

デンマークへは夏に行った経験の方が多いので、運河沿いにお店が出ていて観光客や地元の人たちがたくさんいて；そんな明るい印象がありました。ですが、冬的首都コペンハーゲンを訪れるとそんな賑わいの光景はなく本当にしみるような寒さです。一番寒さを感じたのが、街中の凍りついた石畳の道です。そのとき思い浮かんだのが、アンデルセン童話「マッチ売りの

少女」のこと。この冷たい石畳を裸足で歩いたんだ…と思ったんです。昔からの街並みが続く石畳の道って素敵ですけど、あんなに寒い中で裸足で立っているなんて、本当に凍え死んでしまいます。親に虐待され、あの寒さの中でマッチを売る。思うととても悲しいお話ですよ。

デンマークのフン島にあるアンデルセン博物館には3度訪れています。そのあたりは保存地区でもあり、アンデルセンが生きていたころの家並みがあります。家並みには、今も人が住み、レストランや薬局など当時を彷彿とさせてくれる雰囲気です。アンデルセンの生家と言われる小さな家にも行きました。ただ、彼の生い立ちには謎が多いことで知られています。アンデルセン童話と彼のつらい生い立ちは、かなりリンクします。

スウェーデンの劇作家ストリンドベリやノルウェー民話など、北欧の演劇や物語って暗く怖い雰囲気の商品も多いですよ。

ね。それは、日照時間がとても短くて暗い冬が影響していると私は思うんです。冬になると一日2、3時間しか太陽が出ない。それも夏のような明るい太陽ではありません。それが長い期間続きます。そうすると明るい気持ちにはなれないだろうなっと思うんです。

デンマークの一番南にある小島を訪れたとき、11月の下旬でしたが、朝8時ごろに窓の下を見ると子どもたちが登校しているんですね。でも、外は真っ暗闇。その時期は10時頃に日が昇って15時頃にはまた真っ暗になります。それでも南の方だから日照時間は長い方です。その小島での取材旅行は、たぐさんのふしぎ「風車がまわった！」(福

音館書店 品切れ)という絵本になっていきます。古い木造風車の復元ストーリーです。

暮らしの中にある工夫

長く暗い北欧の冬ですが、暮らしに目を向けると快適に過ごすための彩りが見えてきます。わかりやすいのは、花柄で有名なファブリックメーカーの「マリメッコ」ですよ。華やか

で、まるで南欧にいるみたいに見える柄や色づかい。あの暗い冬があるのに、どうしてこんな柄が出てくるの？と感ぜてしまうほどです。それからスウェーデンといえば、デザイナーのヨセフ・フランク (Josef Frank) という有名な方がいます。ギャラリーに行ったことがあるのですが、インテリアの布地や織物、それが本当にきれいな絵柄と明るい色でデザインされています。家具もかわいらしかったり。北欧には、家の中を明るく素敵にしようという文化があるんですよ。

季節は夏でしたが、スウェーデンでは『長くつ下のピッピ』の作者リンドグレンの生家を訪れました。スコーネ地方と呼ばれる南部の穀倉地帯、麦畑がゆるやかな波のように続きます。生家は木造で生前のまま。素敵なところでした。現在は博物館になって入場できるそうですよ。

北欧旅の思い出

私が北欧に行きはじめてのは1985年からです。はじめは幼かった二人の子を連れての子連れ取材旅行でした。兄は今でいう発達障害なのですが、当時は学校に理解がなくしんどい時期がありました。だから、つらそうな時には一緒に旅に連れ出しちゃうんです。言葉で言うより行動で「君の世界はここだけじゃないよ」と子どもたちに伝えました。実は、そんなことも北欧の旅には絡んでいました。2011年には、「たぐさんのふしぎ」で『森はみんなの保育園』を夫と共著で出している

ます。デンマークにある「森の保育園」の一つに取材へ行き、森で一日中過ごす幼児と一緒に行動しました。素晴らしい1日でした。森は、黒板も教科書もないけど、すべてが学ぶことでいっぱい。遊びも手作り。のびのび過ごす子どもたちに幸せな気持ちになりました。

全障研のみなさんと北欧研修ツアーで一緒に出したのは2013年からです。私は教育や福祉の専門家ではなく絵描きなので、「ここだけ一緒に視察させてください」とついていきます。その視察で行った保育園で驚いた話なんです。赤ちゃんたちが外でお昼寝をしていたんですね。日本のバギーとはちがう車輪もカゴも大きな乳母車に乗って、私、あの乳母車が好きで気になって(笑)。

まだ秋でしたが、聞くと「真冬でも外で寝ていますよ」って。いろんな国の冬、おもしろいですよね。(談)

